



作業したら直ちに記帳しよう(営農の手引き綴じ込みの栽培履歴記録簿へ)

三点セット(疎植、細植、5月田植)で乳白粒の発生を防止しよう

今月のポイント① コシヒカリの田植えは疎植、細植、5月田植えで！

- 乳白粒の発生防止は過繁茂防止から。
- 過繁茂防止は疎植（50～60株/坪）、細植（3～4本/株）、5月田植とし、50株/坪は15箱/10a、60株/坪は18箱/10aで植付けしましょう。

※50株重点推進地区：内日角、指江、狩鹿野、領家、能瀬、舟橋、川尻、潟端、太田
※中山間地や晩期コシヒカリは、収量確保のため、60株/坪以上としましょう。

コシヒカリ50～60株/坪
晩期コシヒカリ60株/坪以上
ゆめみづほ：60株/坪
細植（3～4本/株）

→ 適正茎数の確保

→ 適正籾数の確保

→ 乳白粒の発生防止



▲細植イメージ
『うま・きれ総合実証圃』平均3本/株

今月のポイント② 農薬使用基準を守って使うこと！

- 農薬の使用量、使用時期等を必ず守って下さい。
- いもち・初期害虫の同時防除（箱施薬剤）

使用薬剤	効果・特徴	使用量	使用時期
ツインターボ箱粒剤08 ブイゲットバリアード粒剤 Dr.オリゼフェルテラ粒剤	イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ・いもち病等の 病害虫予防の箱処理剤（本田のオリゼメート不要） 白葉枯病常発地帯は必ず施用してください	50g/箱	田植前3日～ 田植当日

※水稻育苗後、ハウス内で野菜等を作付けする場合は、ハウス内での箱粒剤の散布を控えてください。
※苗箱に箱施薬剤と間違えて本田除草剤をまかないよう注意してください。

今月のポイント③ 圃場にあった除草体系と除草剤散布後7日間の止水を徹底！

- 環境保全のため、除草剤の田植え前処理は絶対にしないで下さい。

〈一発処理〉（代かきから4日以内で田植えする場合に実施）

田植直後～10日 ヤイバ1キロ粒剤

（省力化一発処理）

田植後3日～12日 ヤイバジャンボ

〈体系処理〉（代かきから田植えまでの期間が長い場合や休耕田後の田などで実施）

田植直後～5日	キルクサ1キロ粒剤	田植後10日～20日	ヤイバ1キロ粒剤
	農将軍フロアブル	田植後10日～14日	ヤイバ1キロ粒剤

（特に雑草が多い場合）

田植直後～	キルクサ1キロ粒剤	田植後14日～20日	〈粒剤体系〉ヒエ、イボクサが多い場合 エーワン1キロ粒剤
	サインヨシフロアブル	田植後14日～20日	〈フロアブル体系〉イボクサ、カヤツリ系が多い場合 忍フロアブル

注意！！

- ・代かき後、田植え前にキルクサ1キロ粒剤や農将軍フロアブルやサインヨシフロアブルなどの初期剤を散布した場合は7日間田植えができません。
- ・誤って使用した場合は農薬取締法の違反になります。
- ・例として、日曜日に初期剤を散布した場合、次の週の日曜日から田植えができます。

裏へ続く

今月のポイント④ 田植同時除草剤の使用上の注意点

田植同時除草剤を使用する場合、苗の根が除草剤に接触すると薬害を生ずることがありますので下記の点に注意してください！

- 植え穴の戻りが悪い圃場では使用しない →代かきを丁寧に行うこと
- 水もちの悪い圃場では使用しない（1日で水がなくなる圃場）
- 極端な浅植えにならないよう田植機の植え付け深度を事前に調整する。
→根が地表に出ないようにすること

今月のポイント⑤ 石川かほく環境にやさしい農業のすすめ

- 耕うん作業
 - ・耕うん作業はていねいに行い、ほ場の碎土性と均平度を高めることで、浅水代かきの効果が高まります。
- 代かき
 - ・田植え3日前までに行い、代かき後のにぎり水は絶対に落水しない。
- 田植え前のにぎり水流出を防止するために代かきは浅水で
 - ・水を入れすぎると、代かき作業がしにくくなるだけでなく、にぎり水の量を増やすこととなり、環境保全によくありません。
 - ・代かきハロー（ドライブハロー）で代かきを行う場合、水の量は右の写真（土が7～8割見える）程度で十分です。
 - ・浅水での代かきは、節水にもつながります。
 - ・通常のロータリーで代かきを行う時も、できるだけ浅水にします。
 - ・代かきハローはゆっくり歩く程度の早さで走行し、1行程の作業で仕上げましょう。
 - ・田植え前の「強制落水」は、にぎり水流出の一番大きな要因です。
- 田植え後の見直し作業
 - ・20株に1株程度の欠株では減収しないので補植はしない。
 - ・過繁茂防止のため、活着肥は施用しない。
- 田植え後の水管理
 - ・活着後、晴天時は浅水とする。藻が発生してきたら田干しする。



JA石川かほく米555共励会今月のポイント

- 田植機同時散布で楽々散布・労働時間短縮
 - 省力剤散布で楽々散布・労働時間短縮
 - 疎植・細植・5月田植えで品質向上
- 「JA石川かほく米555共励会」エントリー受付中。詳しくは営農販売課まで

「経営所得安定対策」のご案内

●米に対する助成

【米の直接支払交付金】 主食用水稻作付面積10a当たり7,500円

●水田活用の所得補償交付金

【戦略作物助成】

対象作物	交付単価（10a当たり）
麦、大豆、飼料用作物	35,000円
WCS用稲	80,000円
加工用米	20,000円
飼料用米、米粉用米	収量に応じ 55,000円～105,000円

【二毛作助成】・【耕畜連携助成】・【産地交付金】

●加入手続き

【6月末までに申請】※5月下旬に産米出荷契約書と同時に手続きします。

くわしい内容のご相談は、JA石川かほく営農販売課へ TEL（288-7555）